

2019年度CSR活動総括/外部有識者コメント

2019年度CSR活動総括

2019年度は、サステナビリティ推進ワーキンググループ(WG)として「TOYO TIREのSDGs」をテーマにグループ全社と直接対話し、TOYO TIREのサステナビリティ推進の考えや方向性について説明するとともに、各機能組織、グループ各社の取り組み状況や課題を共有しました。

これらの対話を通じて、私たちの事業活動が将来にわ

たって社会に及ぼすインパクトや、そこに生まれる企業価値に対する理解をさらに深めていくことの重要性が明らかになりました。2020年度も引き続き、文化や価値観の違いを前提として受け入れながら、サステナビリティ推進活動の理解浸透を進めてまいります。

SDGs WG リーダーコメント

2030年時点で当社グループが到達していなければならないと考える姿をゴールとして定めた「TOYO TIREのSDGs」を策定し、2019年、社内外に公表しました。当社は、3年前に会社の背骨とも言うべき「理念」を策定し直し、また、2019年度は社名を変更して自らの使命を改めて明らかにしました。この流れの中、グローバルにさまざまな関係者とともに事業を行っているという足元を見つめ、広く世界に目を向けて国際的な共通言語である国連のSDGsに賛同、これに資する自律的な行動項目を「TOYO TIREのSDGs」として掲げ、そのスタートラインにつきました。

技術開発や生産供給、営業販売だけでなく、原材料調達や採用、教育、ガバナンスに至る事業経営活動全てを「持続可能性」や

「共生」に照らして見つめ直し、それに資する行動を果たしていくという宣言は、75年にわたる当社の歴史から見ても、大変重く大きな意味合いを持っています。

立場の異なるさまざまな人たちと支え合い、将来世代へ世界を維持していくためには、「何をするのか」の先に「なぜ、するのか」が重要と考えます。従業員を含め、社会のためにも事業を行う関係者とこの基本理念を常に共有し、そして、協調していくことで一つひとつのゴールを実現していきます。



TOYO TIRE株式会社
経営基盤本部長

北川 治彦

外部有識者コメント

TOYO TIREグループは、2014年に策定された基本方針と7つの重点テーマをもとに段階的に取り組みを進め、真摯に継続的な開示を行っています。7つの重点テーマより「TOYO TIREのSDGs」を導き出し、2030年のあるべき姿として長期視点でも取り組みを発展させる意思を積極的に示しています。2017年度に抽出した優先課題である「気候変動」「人権・労働および腐敗防止」「持続可能な調達責任」を中心に、方針整備やデータ把握・拡充等の準備を丁寧に進めていると見受けられます。

今後は、「TOYO TIREのSDGs」の7つの重点テーマを実現する上での「優先課題」の位置づけを明確に示すとともに、重点テーマ1「製品・サービスの信頼と革新」をはじめ、各部門で強化されていく予定の具体的な取り組みや目標の全体像を体系的に示していくとよいでしょう。また優先課題に対する2020年の予定として本報告書内に言及されているTCFD対応検討や人権リスクチェック、持続可能なサプライチェーンマネジメントの推進など、中長期的かつ組織的に、

お取引先をはじめとしたステークホルダーとともに進めていく必要のある取り組みは、投資家の求めるESG情報開示に对应していくことにもつながります。ぜひ歩みを止めずに進めていただきたいと思います。

2020年は、2021年からの新中期経営計画策定の年とのこと、「TOYO TIREのSDGs」で整理されているリスクの低減や機会の拡大に向けた取り組みは、新中計を支え、さらに強く連動するものとして位置づけられていくことになるでしょう。「TOYO TIREのSDGs」の活動計画の策定と併せて、重点テーマと価値創造の関係性を改めて整理し、2030年に向け、新中計の先を見据えた独自性あふれる価値創造ストーリーにつなげていくことを期待します。



株式会社イースクエア
代表取締役社長

本木 啓生 氏

【サステナビリティ推進活動の進捗状況】

ワーキンググループ (WG)	目的	2019年度活動実績	2020年度活動予定
SDGs WG	国連 SDGs に貢献する TOYO TIRE のSDGs の策定および達成	<ul style="list-style-type: none"> ・TOYO TIRE のSDGs の公表 ・グループ全社インタビュー (活動状況フォロー) ・SDGs の社内浸透 (国内向け説明会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・TOYO TIRE のSDGs 達成に向けた社内ターゲット・活動計画の作成 ・グループ全社インタビュー (活動状況フォロー) ・SDGs の社内浸透 (浸透ツールの制作・展開、階層別研修)
環境WG	新たなビジネスリスク・機会である気候変動への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・CDP回答への評価結果の分析 ・情報開示内容の充実 ・グループ全社インタビュー (活動状況フォロー) ・地球環境憲章の改定議論 ・操業地域における水リスク分析評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報開示内容の充実 (第三者検証結果の公表、TCFDへの対応検討) ・グループ全社インタビュー (活動状況フォロー) ・地球環境憲章の改定 ・地球環境行動計画の改定 (気候変動戦略の策定)
人権・労働 WG	新たなビジネスリスク・機会である人権、腐敗行為への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・人権・労働方針、腐敗防止方針の公表 ・上記方針の社内浸透 (研修、中国語翻訳) ・グループ全社インタビュー (活動状況フォロー) ・社内向け人権に関するトップメッセージのグローバル発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権・労働方針、腐敗防止方針の社内浸透 (研修) ・リスクチェックシート作成 ・グループ全社インタビュー (リスクチェック、活動状況フォロー) ・社内向け人権に関するトップメッセージのグローバル発信
サプライチェーン WG	持続可能な調達責任への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・改定CSR調達ガイドライン (天然ゴムの持続可能な調達方針) の公表 ・上記方針の社内浸透 (国内担当者向け説明会) ・上記方針の社外浸透 (国内サプライヤー向け説明会、海外天然ゴムサプライヤー向け通知) ・GPSNR会員企業としての活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・改定CSR調達ガイドライン (天然ゴムの持続可能な調達方針) の中国語翻訳 ・サプライヤー向け自主点検チェックシートの改定 ・上記チェックシートを用いたサプライヤーとのコミュニケーション ・GPSNR会員企業としての活動

外部有識者コメントを受けて

本木様から当社の「CSR報告書2020」について大変貴重なご意見とアドバイスをいただき、ありがとうございました。当社は新成長戦略を昨年公表しておりますが、個々の戦略実現に向けた基盤強化としてサステナビリティ (危機管理体制・ガバナンス体制の強化、働き方改革、人材開発、ブランディング強化など) への取り組みを進めてまいります。

サステナビリティを推進する上では、事業継続との適切な両立、全従業員・全関係者を巻き込んだ取り組み、多様性への配慮が重要であると痛感しております。本年は感染症リスク対応として、従業員、ステークホルダーの安全確保のため生産拠点、物流拠点以外の事業所・事務所を閉鎖し、在宅勤務の中での事業継続を図りました。コロナ禍の中でそれぞれに状況・環境の異なる世界各国の種々取引先様との調整、育児・介護など異なる事情がある従業員への対応、新入社員をはじめとする若手従業員の

在宅勤務下での育成・教育、働き方改革・人材多様化の推進といった様々な課題も浮き彫りになり、正に危機の中で持続可能な事業継続という課題に正面から取り組むことになりました。この貴重な経験を生かし、当社はサステナビリティをあらゆる環境下で達成できるより一層柔軟な体制を目指してまいります。事業の中で「TOYO TIREのSDGs」を達成することにより、社会に対して独自の価値 (差別化された存在感) を提供してまいります。本木様にご指摘いただいたように新中計の先を見据え、成長戦略と合致した、独自性にあふれた当社の価値創造ストーリーを示していきたいと考えております。



TOYO TIRE株式会社
取締役 執行役員
コーポレート統括部門 管掌
笹森 建彦